

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 藤井孝宗	(学部) 経済
<p>1 重要事項</p> <p>2014 年度も引き続き 2012 年スタートの科学研究費研究プロジェクト「国際運輸サービスの自由化及び輸送費用の低下が貿易・企業立地に与える影響（若手研究 B: 24730214）」の 3 年目として研究を行った。特に国際運輸サービス、特に航空運輸サービスの 2 地点間輸送量に関するマトリックスデータベースの整備、及びそのデータセットその他を用いた研究プロジェクトテーマに迫るための経過的な研究を行った。それ以外としても、昨年同様海洋漁業資源貿易が漁業資源保護に与える影響に関する分析を引き続き行った。これらの研究成果については、以下の国際学会で報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・ Mariko FUTAMURA and Takamune FUJII (2014), “The Effect of Transport Policy on Fuel Consumption in Japan”, presented at the 54th European Regional Science Association (ERSA) conference “Regional Development and Globalisation: Best Practices”, held at Smolny Convert, St. Petersburg, Russia, in 26–29 August 2014・ Yasuhiro TAKARADA and Takamune FUJII (2014), “Economic Impact of Fishery Trade on the Shared Marine Resource: Empirical Analysis on Global Fisheries”, presented at the 5th International Conference on Economics Turkish Economic Association (ICE-TEA) 2014 Conference, held at Akka Antedon Hotel Antalya, Antalya, Turkey, in 18–20 October 2014・ Takamune FUJII (2014), “Comments on “Public Capital and Comparative Advantage: Theory and Evidence” by Akihiko Yanase”, presented at 14th East Asian Economic Association (EAEA) Convention, held at Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, in 1–2 November 2014	
<p>2 その他の事項</p> <p>地域社会・経済との連携活動の一環として、本学産業研究所 2014 年度公開講座「デフレーションを考える」講師として、10 月 7 日に「輸入デフレと貿易自由化」と題し講演を行った。教育活動としては、学部ゼミにおいて研究発表の機会および他大学学生との交流のため 3 大学・ゼミ合同の研究発表会（インターゼミナール）を 11 月に開催した。参加ゼミは法政大学経営学部高橋理香ゼミ・麗澤大学経済学部溝口哲郎ゼミおよび本ゼミである。また、理論研究のみではなく現実経済への感覚を養うため富士重工業の群馬製作所矢島工場（スバルビジターセンター）見学など実地学習を並行して行った。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2015 年度はまず科研費プロジェクトの最終完成年度であり、研究成果の完成及びとりまとめを行うことを最大の目標とする。同時に以前より継続して行っている海洋漁業資源貿易に関する研究も年度中に完成、公表することを目指す。同時に共同研究者として新しい科研費プロジェクトがスタートしたので、そちらにもエフォートをさく予定である。これらについては 4 月現在 1 件の国際学会への参加が決定している(Asia Pacific Economic Association in Taipei, Taiwan)。また、本学地域科学研究所（旧産業研究所）研究プロジェクト「現代の地方都市における製造業の存立基盤に関する研究：群馬県を事例として」の研究メンバーに参加しており、これに関連し地域中小製造業に関する調査、ヒアリング活動を行いたい。あわせて、愛知大学経営総合科学研究所客員研究員となっており、そちらで地域研究・まちづくり研究に関する調査も行う予定である。教育に関しては引き続き他大学とのゼミ交流、合同研究会を予定している。</p>	